

トルコへ強制送還されたクルド人と残された家族の安全を求める緊急署名

1月17日、難民認定を求めて国連大学前で72日間の座り込みデモを行った二家族の内のアフメット・カザンキランさん(49)と長男ラマザンさん(20)が品川入国管理局へ仮放免の延長手続きに行ったところ、その場で身柄を拘束されてしまいました。これは、家族にとっても私たちサポーターにとっても寝耳に水の出来事でしたが、翌18日には、さらにひどい事態が家族と私たちを待ち受けていました。二人が午後2時25分の飛行機で、トルコへ強制送還されてしまったのです。

二人は国連難民高等弁務官(UNHCR)が難民と認めた難民であり、かつてマンデート難民が自己の意志によらず本国に強制送還された例はありません。国連からの勧告は十分に尊重されることが求められており、国際難民条約に日本が加盟している以上、その勧告には原則的に従うべきなのです。今回の事態は国連とそれを構成する民主主義各国に対する挑戦としかいいようがありません。

二人の強制送還により、家族は別れ別れになってしまいました。「やっと一緒に暮らせたのに。2年しか一緒にいらなかった」と次女は泣いていました。しかし残った家族の身の安全を考えた場合、絶対に収容や強制送還させるわけにはいきません。全力を挙げてカザンキラン家の残り5人とドーガン家5人の収容・送還を阻止しなくてはならないのです。

家族にトルコの親類から届いた情報によれば、アフメットさんは空港内でトルコ警察の手に引き渡され、逮捕されました。その後解放されたそうですが、決して安全が保障されたわけではありません。ラマザンさんは軍隊に入隊させられたそうです。私たちは家族を守るとともに、このデタラメな難民行政を告発し、糾していくことが私たちの使命だと考えています。下記の要求を実現すべく緊急署名を作りましたので、私たちの趣旨に賛同される方はどうか署名をお願いします。

【要求事項】

1. カザンキラン家の残された5人及びドーガン家の5人の収容・強制送還を行わないこと
2. アフメット、ラマザン両氏の安全確保のため、日本国政府はトルコ政府に厳重に申し入れ、その監視を怠らないこと

クルド人難民二家族を支援する会 代表 東 文男

氏名 (Name)	住所 (address)